

題材名	1. 歌声をひびかせて心をつなげよう	扱い時数の目安
		5時間
題材の目標	(1) 曲想と音色や旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、歌唱の技能を身に付ける。	
	(2) 音色、速度、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。	
	(3) 曲想や歌詞に込められた気持ちを味わって、歌声に気を付けながら表現を工夫する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、友達と声を合わせて歌うことを楽しむ態度を養う。	
題材の意図		
小学校最終学年の学習は、希望をもち、未来へ向かって進んでいこうという内容の歌詞による、明るく前向きな曲でスタートします。本題材では、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫しながら、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う学習を進めます。		
5年生までに学習してきたことを生かして、歌詞の一つ一つの言葉に込められた気持ちや情景を感じ取りながら、それらにふさわしい歌い方を友達と考え、表現を工夫していきます。その際、歌詞だけでなく、楽譜に示された旋律の音の動きやまとまり、強弱記号、速度記号などから気付いたことと曲想との関わりについても理解できるようにして、自分たちの思いや意図に反映させて表現していきましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱 ア、イ、ウ (ア)(イ)(ウ)		
〔共通事項〕※		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、速度、旋律、強弱、フレーズ		
・音符、休符、記号や用語		
速度記号		

※・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素のうち、アは音楽を特徴付けている要素、イは音楽の仕組み核となるものついては、**太字**で示しています。

・音符、休符、記号や用語

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と音色や旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）	思① 音色、速度、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 曲想や歌詞に込められた気持ちを味わって、歌声に気を付けながら表現を工夫する学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（歌）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 音色、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）		

題材名	2. いろいろな音のひびきを味わおう	扱い時数の目安
		9時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わり、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり、いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、器楽の技能や、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。	
	(2) 音色、リズム、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについてや、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な楽器の音色やオーケストラの響き、声の響きに親しむ。	
題材の意図		
音色に焦点を当てて曲想と音楽の構造との関わりを捉える学習における、6年間のまとめとなる題材です。 様々な楽器の組合せから生まれる響きの美しさや豊かさなどを味わいながら音楽を聴いたり、パートの役割を理解して全体の響きの中で音色や音量のバランスなどを工夫しながら合奏したりする学習を進めます。 また、声の響きが重なる面白さに注目した音楽づくりの学習では、擬音語や発音の違いによって生み出される声のよさや面白さについても味わうことができるようにします。 音楽をじっくりと聴いてオーケストラの豊かな響きを味わったり、友達の演奏をしっかりと聴いて音や声を合わせて表現する喜びを味わったりすることができるようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (2)器楽ア、イ(7)(4)、ウ(7)(4)(5) (3)音楽づくりア(7)(4)、イ(7)(4)、ウ(7)(4) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、旋律、音の重なり イ 反復、変化、音楽の縦と横との関係		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑）	思① 音色、旋律、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（器・づ・鑑）
②知 曲想と音色などの音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。（器）	思② 音色、リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思③ 音色、リズム、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（づ）	
④知 いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。（づ）		
⑤技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）		

題材名	3. 和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう	扱い時数の目安
		11時間
題材の目標	(1) 曲想と和音の響きなどの音楽の構造との関わり、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能、各声部の歌声や楽器の音、全体の響き、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。 (2) 旋律、音の重なり、和音の響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについてや、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 (3) 和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って歌ったり演奏したり、旋律をつくったりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しむながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる和音の響きや音の重なりに親しむ。	
題材の意図		
本題材では、和音の響きやそれらが移り変わることによって生まれる表情の変化を感じ取ることを中心に学習を進めていきます。これまでに、様々な活動を通して、旋律や音が重なり合う響きの美しさを感じ取ってきました。 合唱の教材では、簡単な三部合唱で歌う部分と、斉唱で歌う部分が設定されているので、和音の響きやその移り変わりの美しさを感じ取ったり、斉唱や合唱といったそれぞれの演奏形態の美しさを味わったりしながら歌うようにしましょう。 器楽合奏の教材では、短調と長調の和音の移り変わりやその響きの美しさを味わいながら演奏します。合奏全体の響きを豊かにする和音のパートについて、パートの役割を考えた学習と関連付けるなどして、和音の響きの美しさを味わいながら演奏することができるようにしましょう。また、器楽合奏で学習したことを踏まえて、和音に含まれる音を使った旋律づくりを行い、いろいろなつなげ方や重ね方を試しながら旋律をつくる力も育てます。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(4)(7) (2)器楽ア、イ(7)(4)、ウ(7)(4)(7) (3)音楽づくりア(4)、イ(4)、ウ(4) 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 旋律、音の重なり、和音の響き、調 イ 音楽の縦と横との関係		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と和音の響きなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）	思① 旋律、音の重なり、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って歌ったり演奏したり、旋律をつくったりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しむながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・づ）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 音の重なり、和音の響き、調、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	
③知 曲想と和音の響きなどの音楽の構造との関わりについて理解している。（器）	思③ 旋律、和音の響き、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（づ）	
④技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		
⑤知 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。（づ）		
⑥技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）		

題材名	4. 曲想の変化を楽しもう	扱い時数の目安
		5時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。	
	(2) リズム、速度、旋律、強弱、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる曲想の変化を味わう。	
題材の意図		
これまで様々な音楽活動を通して、旋律の音の動きやリズム、速度、強弱などの音楽を特徴付けている要素と、反復や変化などの音楽の仕組みとの関わり合いによって、音楽の表情がより豊かになることを味わってきました。 本題材では、5年生に引き続き、これらの音楽を形づくっている要素が一体となって醸し出す曲想を味わうための学習を進めます。その際、音楽を形づくっている要素やそれらの働きなどを手掛かりにして、作曲者の意図を考えたり曲に対する理解を深めたりしながら、曲想を生かして表現を工夫するようにします。 また、鑑賞に当たっては、音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れ、音楽を形づくっている要素の関わり合いに注目しながら、曲想やその変化を感じ取って音楽を聴き、友達と話し合う活動などを通して、音楽を聴くことそのものの喜びを深めていくようにします。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(7) (イ) (ウ) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア リズム、速度、旋律、強弱、調、フレーズ イ 反復、変化		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）	思① リズム、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・鑑）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 速度、強弱、調、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	
③知 曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑）		

題材名	5. 詩と音楽との関わりを味わおう	扱い時数の目安
		7時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、旋律や強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。	
	(2) 旋律、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 歌詞と旋律との関わりが生み出す曲想を感じ取りながら聴いたり歌ったりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる詩と音楽との関わりを味わう。	
題材の意図		
我が国には、歌い継いでいきたい優れた歌曲や合唱曲などが多くあり、それらは日本語の美しい歌詞と、言葉のもつ語感を大切にしておつくりられた旋律とが一体となって、歌う人や聴く人の心を捉えます。		
本題材では、5年生「6. 詩と音楽との関わりを味わおう」で学習したことを生かして、歌詞と旋律とが一体となって生み出す曲想を感じ取りながら聴いたり、言葉のまとまりや語感を生かして歌ったりすることができるよう学習を進めます。また、歌詞を音読して作詞者の思いを感じ取ったり、曲に込められた作曲者の意図を考えたりして、歌詞と旋律が一体となった表現の仕方を友達と意見交流しながら工夫していきます。その際、各グループでどのように表現したいかを発表し合い、ほかのグループのよさを自分たちの演奏にも取り入れ、表現の仕方を深めていきましょう。		
鑑賞教材として配置されている滝 廉太郎の「花」「箱根八里」「荒城の月」、さらに共通教材の「ふるさと」「われは海の子」の歌詞には、小学生にとって難しい言葉も含まれています。教科書を参考にして歌詞の内容を理解するとともに、音読して言葉のもつリズムやアクセントを感じ取り、歌詞の表す情景や気持ちを思い浮かべながら曲想を味わって聴いたり歌ったりして、日本語の美しさを味わうようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)		
B鑑賞 ア、イ		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、リズム、速度、 旋律、強弱 、音の重なり、フレーズ		
イ 変化		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想及びその変化と、旋律や強弱などの音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑）	思① 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 歌詞と旋律との関わりが生み出す曲想を感じ取りながら聴いたり歌ったりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・鑑）
②知 曲想と旋律や強弱、音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）	思② 旋律、強弱、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
③技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思③ リズム、旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
④知 曲想と旋律、強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）		
⑤技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）		

題材名	6. 日本や世界の音楽に親しもう	扱い時数の目安
		4時間
題材の目標	(1) 曲想及びその変化と、音色や旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌う技能や、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。	
	(2) 音色、リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本に古くから伝わる歌の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、日本や世界の音楽や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 日本や世界の音楽の特徴を感じ取りながら歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、日本や世界の音楽に親しむ。	
題材の意図		
5年生までに、わらべうたをはじめとして、郷土に伝わるお囃子や民謡、和楽器による音楽など、様々な種類の我が国や郷土の音楽に親しんできました。		
本題材では、我が国に長く受け継がれてきた伝統や文化に親しみ、そのよさを感じ取ることができるように、歌唱と鑑賞とを関連させながら学習を進めます。		
また、諸外国に伝わる音楽も鑑賞し、それぞれの音楽には、風土や民族性によって育まれてきた独自の文化があり、我が国とは違った音楽文化があることに気付くとともに、それぞれの国の音楽のよさを感じ取ること親しみをもち、身近なものにしていくようにします。こうした学習は、自国の芸術や文化に誇りをもつだけでなく、他国の芸術や文化も尊重する態度を養うことにつながり、国際理解の一翼を担うものです。そして、音楽の特徴をその背景となる文化や歴史、ほかの芸術と関連付けて理解する中学校の鑑賞学習にもつながります。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱 ア、イ、ウ(ア)(イ)		
B鑑賞 ア、イ		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、リズム、旋律、音の重なり		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 雅楽「越天楽」の曲想及びその変化と、音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑）	思① 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、雅楽や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 日本や世界の音楽の特徴を感じ取りながら歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・鑑）
②知・技 「越天楽今様」の曲想と音色や旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌う技能や、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本に古くから伝わる歌の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
③知 世界の音楽の曲想及びその変化と、音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑）	思③ 音色、リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、世界の音楽や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	

題材名	7. 音楽で思いを伝えよう	扱い時数の目安
		9時間
題材の目標	(1) 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、歌唱や器楽の技能を身に付ける。 (2) 音色、旋律、強弱、音の重なり、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 (3) 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、音楽で思いを伝える活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、聴き手を意識して音楽表現に取り組む態度を養う。	
題材の意図		
高学年になった子供は、自分の思いや意図を聴き手に伝わるように表現したいという意欲が高まっています。そうした子供の実態に合わせて、卒業式を控えた6年生最後の本題材では、歌唱表現や器楽表現を工夫する際に、自分の思いや意図の根拠を曲の特徴に求めつつ、曲想と音楽を形づくっている要素や歌詞の内容との関わりを考えたり、具体的に思いを伝えたい聴き手の存在を想像したりしながら、表現を工夫する学習を進めていきます。 曲想や歌詞の表すイメージをしっかりと捉え、それらを表現に生かすために、今までに学習してきたことをどのように活用していけばよいのかを話し合い、表現に結び付けていくようにします。 みんなで気持ちや声を合わせて表現したり、共に音楽をつくり上げたりする喜びを味わいながら、表現の質を高めて小学校の音楽学習を締めくくるようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ)		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア 音色、旋律、強弱、音の重なり、フレーズ		
イ 呼びかけとこたえ		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌）	思① 音色、旋律、音の重なり、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	態① 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、音楽で思いを伝える活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器）
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 音色、旋律、音の重なり、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器）	
③知・技 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、範奏を聴いたり、イ短調及びハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思③ 旋律、強弱、音の重なり、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌）	
④技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能や、各声部のリコーダーの音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		